

シクラメンを題材にした魅力ある学校づくり その2

～地域に広げようシクラメンの輪～

岡山県立瀬戸南高等学校

深井 徹 平田 真人
田淵 保彦 布野 彰

1 はじめに

我が校のシクラメン祭は38年目を迎えた伝統行事で、冬の風物詩として地域に定着している。お客からは翌年も咲かせる方法についての質問が多いことや、原種シクラメンへの関心の高まりが見られる事から、これらに応える活動を始めて今年で5年目になる。ここでは過去2年間の取り組みを中心に、5年間の取り組みについて報告する。

2 活動の概要

<研究A>シクラメン夏越し講座

1年次：夏越し法の実証試験

2年次：シクラメン夏越し講座の開始

3～5年次：講座の改善と充実、スキルアップ

<研究B>原種シクラメンの情報発信

1年次：①原種の導入 ②シクラメンの里づくり

2年次：①栽培暦作成 ②シクラメン祭での公開

3年次：①原種観察会の実施 ②パンフ作成

4年次：①校外での展示開始 ②原種苗の増殖

5年次：①校外での展示拡大 ②展示内容の充実

3 研究A「シクラメン夏越し講座の実施」

(1) 講座の実施経過

2006年に初めて地域の方を対象に小さな「夏越し講座」を開催した。年3回、受講者はわずか7名だった。2007年からは年5回の講座を実施。特に宣伝はしていないが、受講者は年間約20名延べ100名で、以下の内容で毎年継続している。

第1回（5月）「非休眠法」の植え替え

第2回（6月）夏場の管理法について講義

第3回（9月）「休眠法」の植え替え

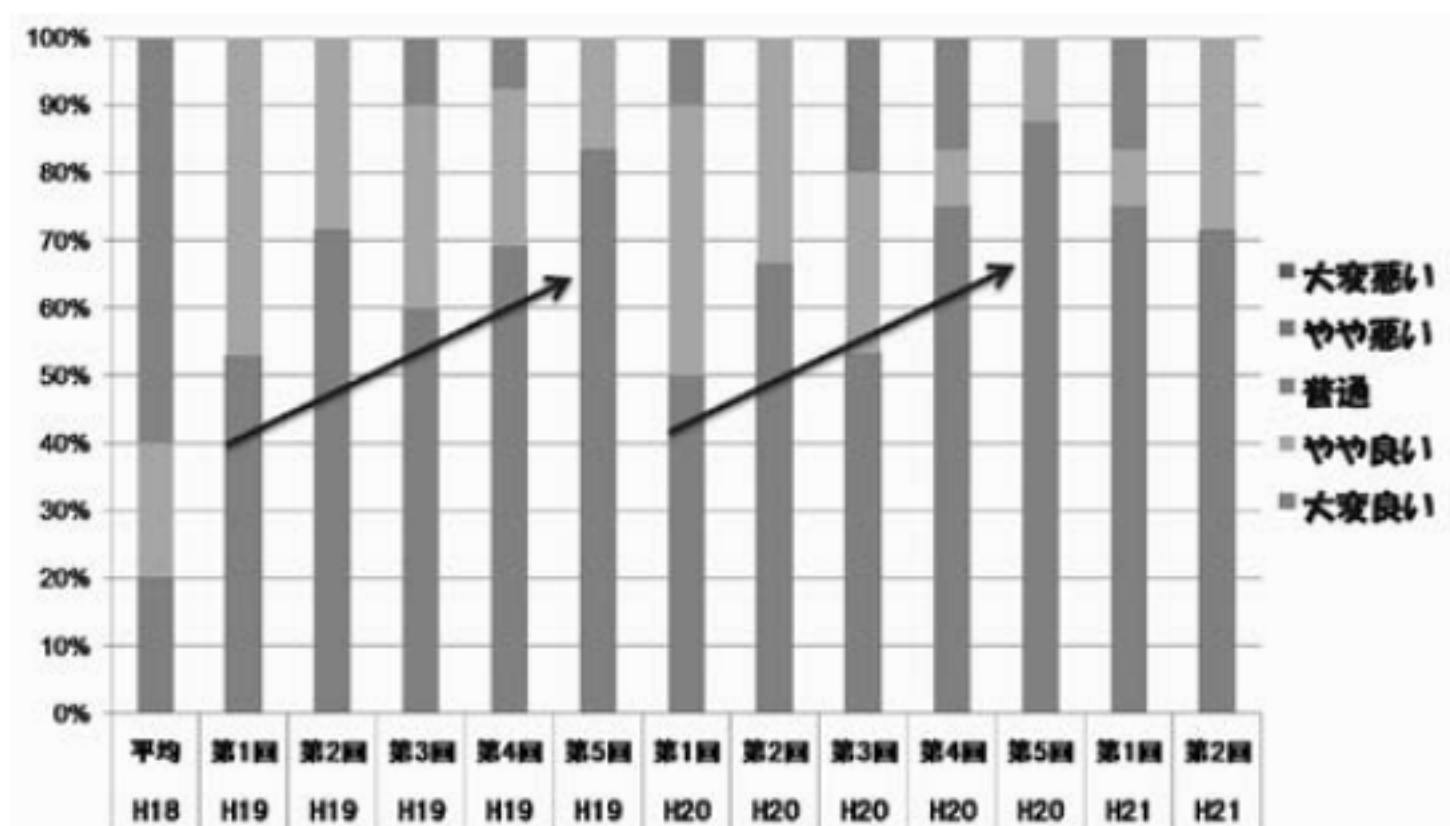
第4回（11月）葉組みと開花までの管理

第5回（1月）開花状況の観察と夏越しの検証

(2) 受講者の反応

受講者の中には自分で夏越しさせ、見事に開花させたシクラメンの写真を持ち寄る方もあり、喜んで頂いている。講座ごとのアンケート5段階評価結果では、毎年第5回の講座での評価が高くなる傾向が見られ、開花まで継続して受講して頂く事が受講者

の満足度を高めるには重要なようだ。



受講者の声の一部を紹介すると、「休眠法と非休眠法の違いがよくわかった」「生徒の明るい笑顔と説明に好感が持てた」「生徒の説明の努力が素晴らしい」など、好意的な感想が多い。

(3) 生徒に及ぼす教育的効果

講座を通して生徒自身も夏越しのスキルアップをしている。特に2008年度は3年生全員の夏越し株が豪華に開花し、卒業式を迎えても学校玄関を華やかに演出してくれた。



生徒の感想の一部を紹介すると「受講者の方とのコミュニケーションは、始めはおばさま方の勢いに圧倒されて、しどろもどろだったり疲労が溜まるだけだったけど、だんだんと会話も弾むようになり楽しく講座をする事ができました。地域交流は、外部の方が学べる場だけでなく、自分も一緒に学べる場だと思いました。」とある。

生徒にとって、大人を相手に講座を行うには事前の十分な学習と準備、本番での機転が不可欠であり、必要に迫られての学習は日常の学習より何倍も効果的であると言えるかもしれない。

4 研究B「原種シクラメンの情報発信」

(1) なぜ今、原種シクラメンなのか

約22種類あるとされる原種シクラメンは、成長は遅いが長生きする特徴があり、日本でも地植えで自然繁殖が可能な種もある。園芸種には無い清楚な花と特徴的な葉も鑑賞できる植物である。そこで地域の方が原種の観察に訪れる場所を造ってその魅力を伝えようと、校内で「シクラメンの里づくり」を進めると共に、校外での展示も行った。

(2) シクラメンの里の整備・栽培暦の作成

「シクラメンの里づくり」は2005年より先輩から後輩に受け継がれ、維持管理と共に、課題研究作品制作を兼ねて毎年栽培面積を拡大してきた。栽培環境としては、夏は涼しく冬は日当たりがよい場所が理想なので、落葉樹の下を基本に、各原種の耐暑性、耐寒性を考慮して定植を進めた。

現在は、秋咲きのヘデリフォリウム・シリシウム、春咲きのコーム・スーダベリカム・レパンダム・アルピナム、常緑のプルプラセンスの7種を地植えで栽培。耐寒性の弱い春咲きのペルシカム（園芸種の祖先）等は鉢植え栽培が必要に応じて屋内管理をしながら展示に活用。また、生徒が本校オリジナルの原種栽培暦を作成し、観察会で説明に活用している。

(3) 原種シクラメン観察会の実施

2006年12月に第35回シクラメン祭で「シクラメンの里」を初公開して以来、今年度12月までの観察会は15回を数え、延べ777名の方が訪れた。

開催回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
年	2006	2007	2007	2007	2007	2007	2007	2008	2008	2008	2008	2008	2008	2008	2009
月日	12月2日	3月11日	4月11日	6月9日	7月26日	11月10日	12月1日	3月5日	4月19日	5月7日	7月31日	10月25日	11月15日	12月7日	12月6日
見学者数	50	10	5	30	35	2	120	22	56	27	110	28	12	120	150
対象	一般	地域の方	地域の方	受講者	J女 受講者	一般	地域の方	地域の方	役員 総会	オープン スクール	地域の方	受講者	一般	一般	一般
観覧種	ヘデリフォリウム	コーム	ペルシカム	コーム	ヘデリフォリウム	ヘデリフォリウム	ヘデリフォリウム	コーム	ペルシカム	ペルシカム	ヘデリフォリウム	ヘデリフォリウム	ヘデリフォリウム	ヘデリフォリウム	ヘデリフォリウム
備考	シクラメン祭	開催 案内	開催 案内	園放 講座	寄植 講座	園放 講座	シクラメン祭	開催 案内	苗の 販売	役員 総会	オープン スクール	開催 案内	夏越し 講座	シクラメン祭	シクラメン祭

電話などで開催案内をし、3～4月には春咲き種を、10～11月には秋咲き種の開花を楽しんでもらう。可憐な花、特徴ある葉、結実に伴って渦を巻く花梗、植えられている環境など、腰をかがめて観察しカメラに収める。アンケートでは観察会を「良い」と評価する方がほとんどで、「実をつけている姿が可愛い」「地植えできることに興味を沸いた」等、

開花期以外の原種の魅力も確認できる内容の感想が多く見られた。

(4) 原種苗の増殖

「原種の苗を販売して欲しい」という声に応じて、2007年から実生で原種苗を育成中。主な種は日本でも栽培が容易なコーム1500鉢とヘデリフォリウム150鉢。播種から開花までには3年を要するが、今春開花予定のコーム苗については今年度のシクラメン祭で70鉢を販売した。

(5) 原種シクラメン校外へ

校外に原種を紹介する試みとして、2008年から地元コミュニティハウスにコームやヘデリフォリウムの花壇を造った。またJR瀬戸駅にはオリーブとコーム・ヘデリフォリウムの寄せ植えを展示した。更に、より多くの人に原種を紹介するため、「全国都市緑化フェア」では原産地の地中海沿岸をイメージした花壇「シクラメンの小径」に原種5種を展示した。花壇手入れの際に生徒がお客さんに原種の説明をすると、結実して渦を巻く姿を珍しそうに観察していた。しかし説明をしないと気づかないお客さんも多く、展示方法にもっと工夫が必要だった。またアンケートを実施できずに終わったのが残念だった。原種を展示したこの作品は民間放送局や地元ケーブルテレビから取材依頼があり、効果的な情報発信ができたと思う。

(6) 生徒に及ぼす教育的効果

生徒の感想には「観察会の回数を重ねる度に説明がうまくなるのを実感できた」「シクラメンの里を整備したり原種の勉強をしてきてシクラメンがとても好きになった」とある。原種の特徴を学びその魅力を伝える事は、コミュニケーション能力の育成だけでなく本校の基幹作物であるシクラメンに関して愛着と誇りを持たせる機会にもなっていると考える。

5 おわりに

5年間の取り組みは小規模ながらもシクラメンの魅力を別角度から見直すきっかけとして確かな手応えを感じる。今後も、地域からは知る楽しみのある学校、生徒にとっては誇りの持てる学校、そんな魅力ある学校づくりに地道に努力してゆきたい。

